

御土居 (おどい) —都市の治水と都市再編— 京都市

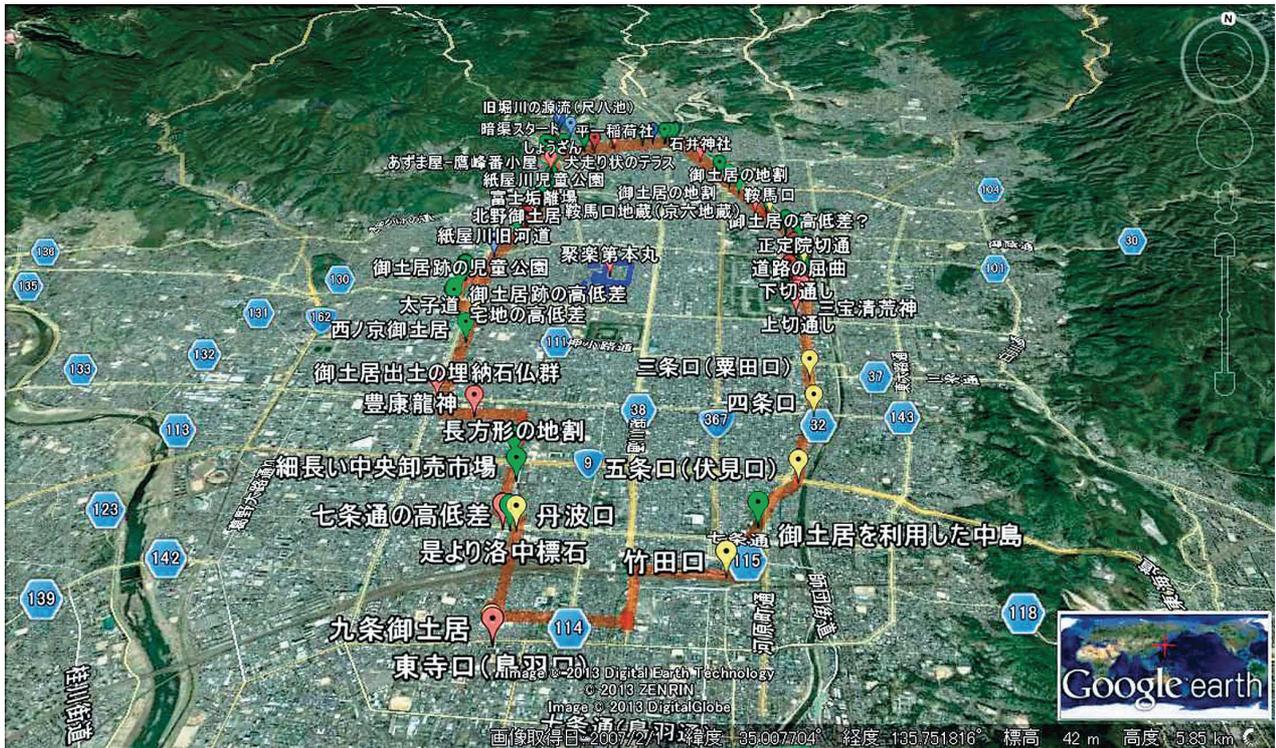


図1 Google Earth 上で展開した「御土居マップ」

KML

豊臣秀吉が京の街に巡らせた土塁、「御土居」の跡を Google Map 上で表すサイト¹⁾があったので、kml ファイルを取り出して Google Earth に重ねてみた (図1)。

kml ファイルに書き直すことで立体的な表記が出来るだけでなく、別の GIS ソフトで作った標高段彩図や旧版地形図等の上に重ね合わせる事ができる (図2)。

京都の西部、北野天満宮から平野神社界隈の紙屋川沿いは、御土居の名残を色濃く残した場所である。平安時代に「西堀川」が流れていた跡に沿って秀吉が堀を作り土塁を築いたもので、扇状地の末端部で頻発した洪水対策でもあった (写真1)。

旧版地形図を見てみると所々に「御土居」が残っており、「御土居」が市街地と郊外 (洛中と洛外) の事実上の境界線になっていることがわかる (図2)。1877年 (明治10年) 2月5日。神戸から大阪を経て敷設された鉄道は、鴨川に近い竹田口の御土居上にプラットホームを設けて「京都停車場」を開業した。旧1番線ホーム (現:0番線・31番線) の全長は558mあり、日本一の長さを誇る (写真2)。

大胆な設計思想と、当時の土木技術の粋を集めた「御土居」は、各地の治水事業や城下町の設計に大きな影響を与えた。今日、多くの人が暮らす、新田開発された沖積低地や扇状地の暮らしと防災を考える上でも、「御土居」は重要なモニュメントの一つである。

1) 「御土居マップ」 <http://goo.gl/X1sPo>

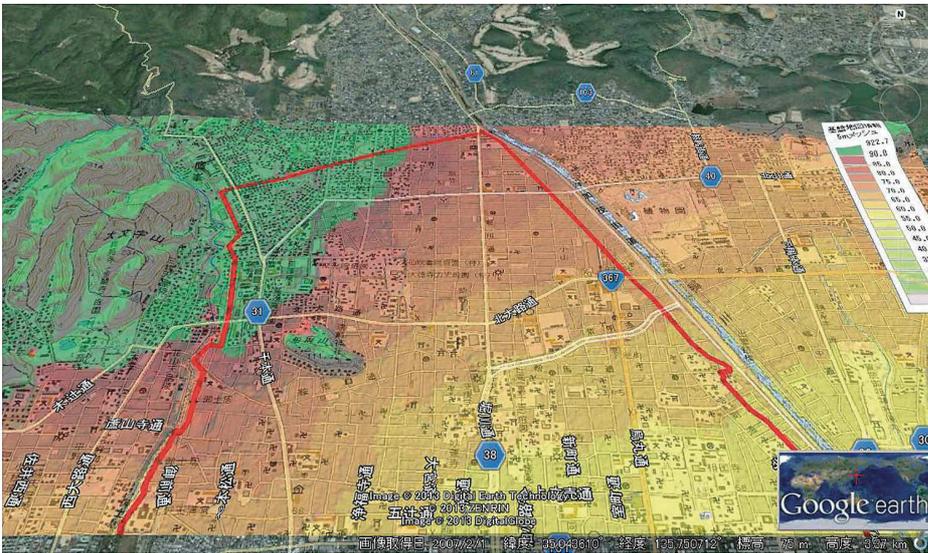


図2 5m 標高メッシュと「御土居」の重ねあわせ(金閣寺付近)
「地図太郎」(<http://www.tcgmap.jp/product/chizutaro/>) により作成

KMZ



図3 旧版地形図上に重ねた「御土居マップ」
明治 25 (1892) 年。「今昔マップ 2」(京阪神編) (<http://ktgis.net/kjmap/>) により作成



写真① (左)
史跡として保存・整備された「御土居」
の一部(北野天満宮付近)

写真② (右)
ほぼ「御土居」の上にある
京都駅の旧1番線(現0番線)ホーム

KML 図① <http://www.ninomiya-shoten.co.jp/kml/ictz/105/fig1.kml>

KMZ 図② <http://www.ninomiya-shoten.co.jp/kml/ictz/105/fig2.kmz>